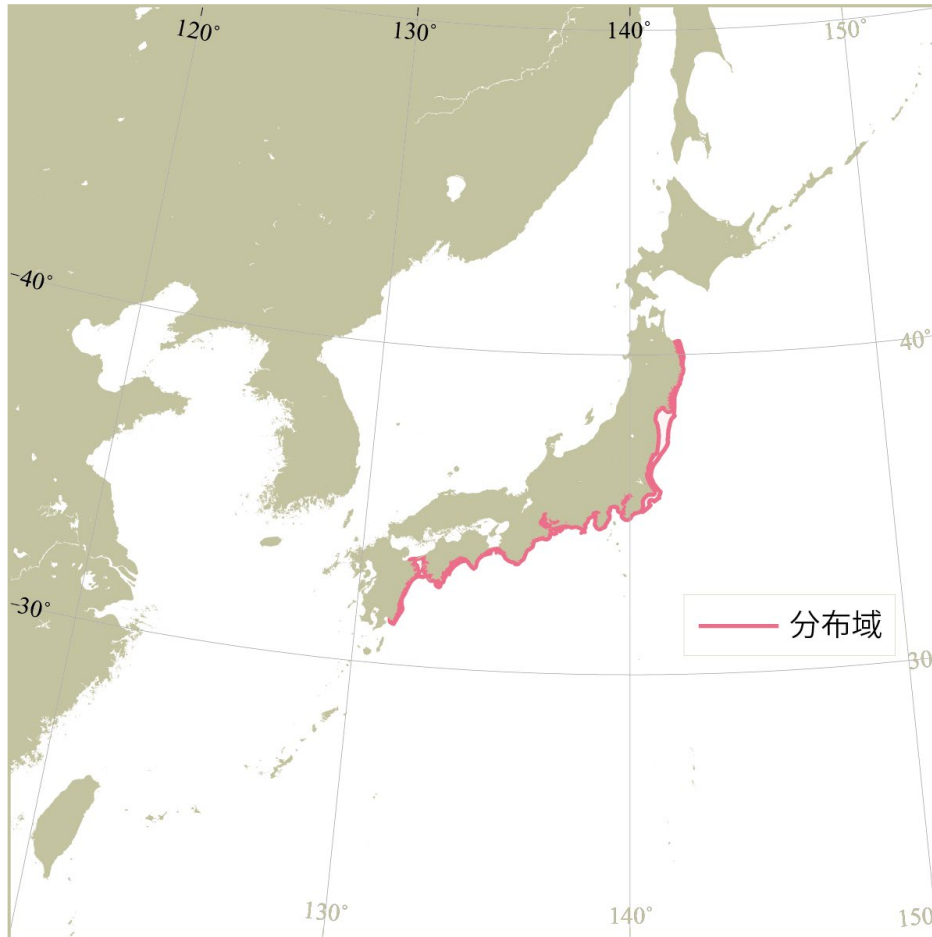




ヤリイカ太平洋系群 令和3年度資源評価結果

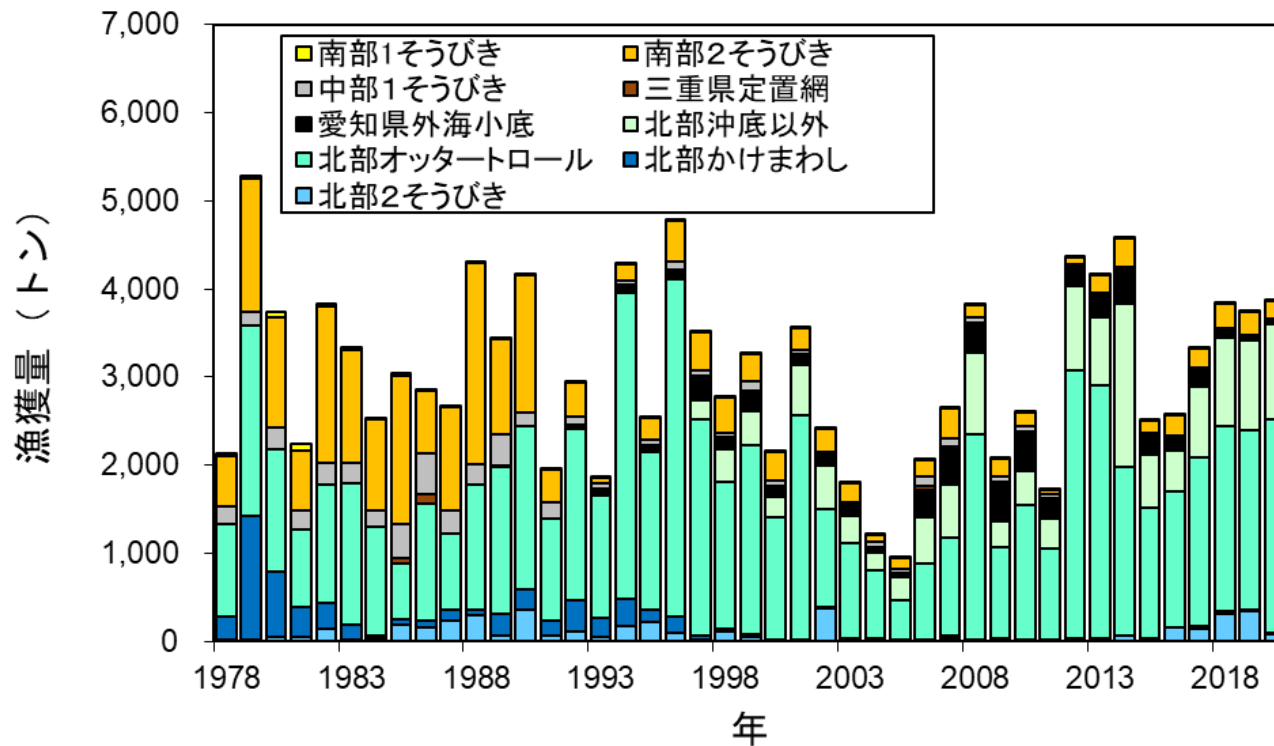
生物学的特性



生物学的特性

- 寿命:1年
- 成熟開始年齢:約1歳
- 産卵期・産卵場:
1~6月、九州~東北沿岸各地
- 食性:
外套背長50mmまでは主にカイアシ類、60mm~150mmではカイアシ類、オキアミ類、アミ類、170mm前後からは魚類
- 捕食者:
海産哺乳類、大型魚類等

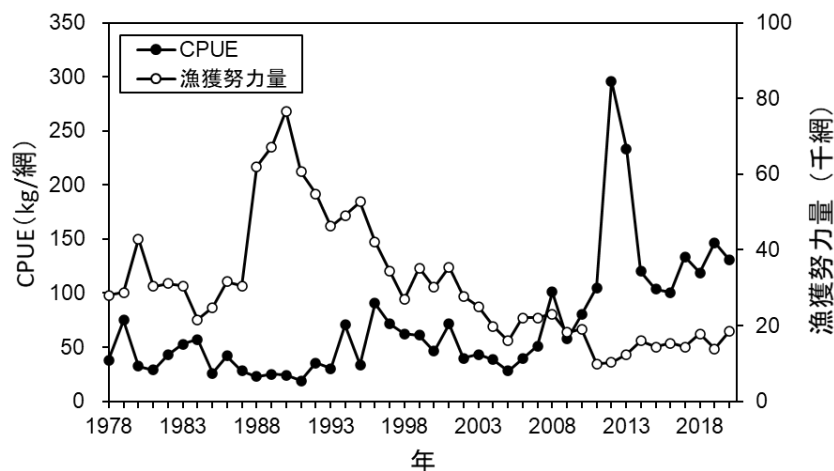
漁獲の動向②



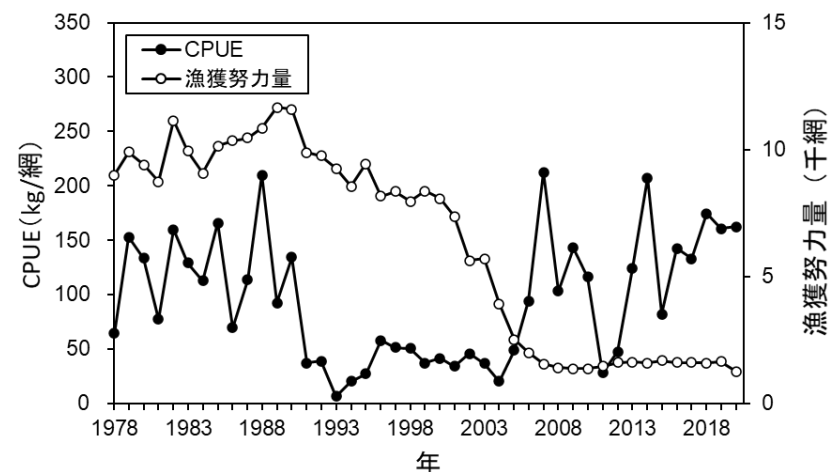
- 漁獲量は1990年代以降、北部（岩手県～千葉県）で増加、中部（静岡以西の本州）、南部（四国・九州）で減少
- 2012年以降は北部の漁獲量が全体の80～90%を占める
- 2020年の太平洋系群全体の漁獲量は3,870トン

漁獲の動向②

北部主漁法：オッタートロール



中・南部主漁法：南部2そうびき

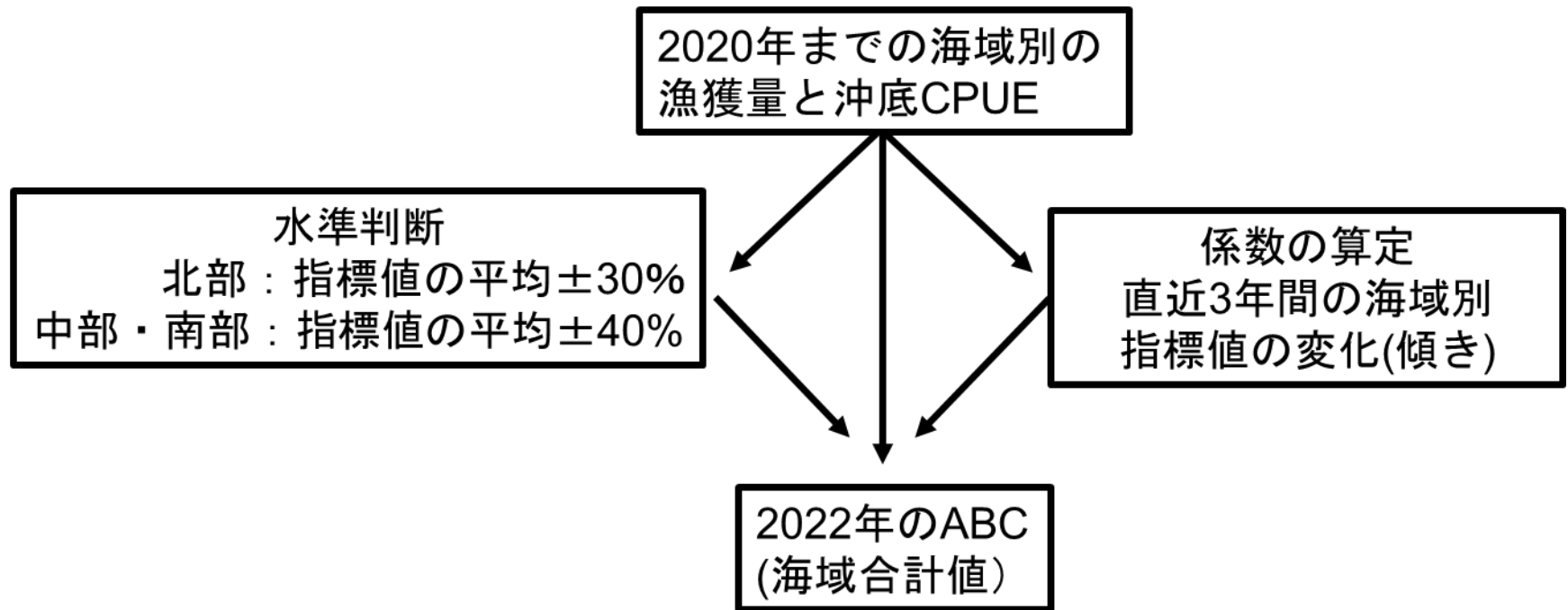


※CPUE：年間漁獲量／年間有漁網数

漁獲努力量：有漁網数(ヤリイカが漁獲された日の網数を集計したもの)

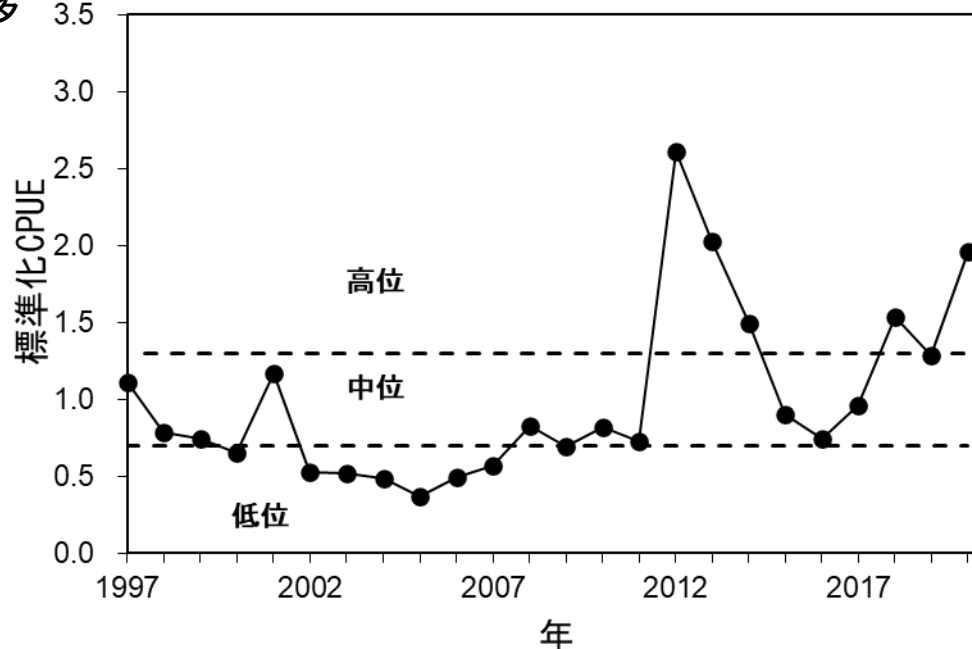
- 北部の主漁法：沖底のオッタートロール
1990年以降努力量減少
- 中・南部の主漁法：沖底の南部2そうびき
着業隻数の減少に伴い2000年代に努力量が大きく減少

資源評価の流れ



資源の動向①

北部オッタートロール
標準化CPUEの推移

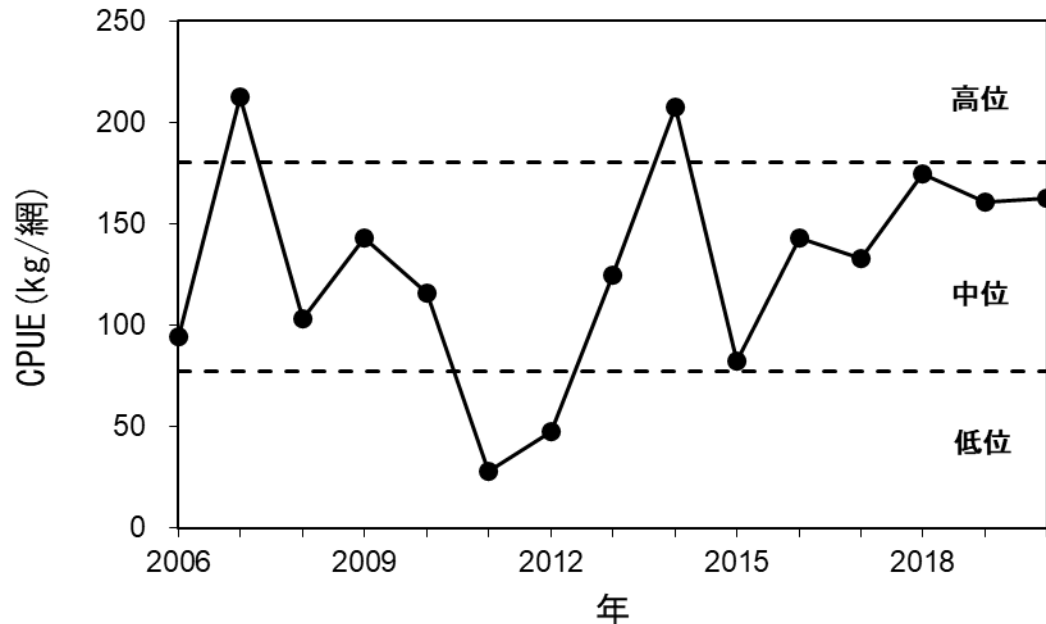


※水準区分 低位／中位：1997以降の標準化CPUE 平均比0.7倍
中位／高位：1997以降の標準化CPUE 平均比1.3倍
(平均値が1となるよう規格化した標準化CPUEの値で水準判断)

- 北部はオッタートロールの標準化CPUEから判断
- 資源水準：2020年の標準化CPUEは平均比1.96倍で「高位」
- 資源動向：直近5年間の標準化CPUEの推移から「増加」

資源の動向②

南部2そうびき CPUEの推移



※水準区分 低位／中位：2006年以降のCPUE 平均比0.6倍
中位／高位：2006年以降のCPUE 平均比1.4倍
(南部海域における沖底2そうびきのCPUEで水準判断)

- 中・南部は南部2そうびきのCPUEから判断
- 資源水準：2020年のCPUEは平均比1.26倍で「中位」
- 資源動向：直近5年間のCPUEの推移から「増加」

資源評価のまとめ

- ヤリイカ太平洋系群全体の資源水準は高位、動向は増加
- 北部と中・南部で海域別に資源状態を判断

2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの 増減%)
1.0・北部Cave3-yr・1.13 0.9・中部・南部Cave3-yr・0.96	Target	3,390	—	—
	Limit	4,240	—	—

- ・ ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot \gamma 1$ で計算
- ・ $\delta 1$: 北部は1.0 (高位水準での標準値)
- ・ $\delta 1$: 中部・南部は0.9 (中位水準での推奨値)
- ・ Cave3-yr: 2018年～2020年の各海域漁獲量平均値
- ・ $\gamma 1$ (1.13、0.96): 資源量指標値の直近3年間の動向から算定される係数
- ・ 系群のABCは海域ごとに算定したABCの合計値